

歴博 ぐらしの植物苑だより

第9回日本の植物文化を語る 8月26日(土) 13:30～ 本館講堂 入場無料
『近世の園芸文化—その仕掛け人と作り手』 小笠原亮 (名古屋園芸)

ぐらしの植物苑の活動：毎月第4土曜日 13:30～

奇数月 ぐらしの植物苑観察会 13:30～ 東屋集合 テーマに基づく講演，苑内案内

偶数月 日本の植物文化を語る 13:30～ 本館講堂 入場無料

ぐらしの植物苑ホームページ：苑内の見どころ 毎週更新 歴博ホームページからリンク

ぐらしの植物苑だより：トピックスと見どころ 毎週更新

正木系統の花を紹介します。



114 黄/蟬葉/栗皮茶/丸咲/大輪
団十郎といわれる茶色の朝顔です



508 青渦尾長立田葉淡青切咲き



584 黄渦蜻蛉ねじれ葉桃縮咲



597 青渦蝙蝠南天葉淡青地藤紫吹雪筒咲八重



751 青斑入渦蜻蛉葉白地赤吹掛絞桔梗咲



1072 松島鍬形葉白地紫時雨絞咲分丸咲

畑の作物を紹介します。

ハトムギ (イネ科ジュズダマ属)

ジュズダマによく似ていて、変種とされる。穎果はハウロウ質の苞にくるまれるが、ジュズダマと違い指で押せば割れるほど柔らかい。東南アジアでは、精米して常食とする所もある。栄養価は高く、精米したものを薏苡仁(よくいにん)という。写真の黄色は雄花序です。



ヒエ (イネ科ヒエ属)

子実を食用や飼料に使う、茎が扁平で角張り、穂が鳥の足指の形となる。ヒエの穂は開散穂型、密穂型、中間型がある。作付けしたものは九州ヒエで開散穂形である。悪い環境に強く、飢饉の時の作物としても山間地に栽培される。



キビ (イネ科キビ属)

穎果はアワよりも大きく、熟すと脱落し易い。もち種はぜんざい、粉にしてキビ団子やちまきに用い。うるち種は飯や粥にする。



アワ (イネ科アワ属)

東アジア原産の1年草で、エノコログサから進化したと言われる。穂の小さいコアワと大きいオオアワがある。もち種は餅、だんご、酒(泡盛)に、うるち種は飯、ぜんざい、おこしにする。乾燥風土に適する。



ツナソ (赤茎イチビ) (シナノキ科ツナソ属)

東アジア原産といわれる。茎がまっすぐに伸び、枝の先端付近で枝分かれする。黄色の5弁の花が葉のつけ根に咲く。茎を切ってすぐに皮をはいだ粗麻と、生茎を1~2週間水につけ皮部をはいだ精麻がある。



イチビ (桐麻) (アオイ科イチビ属)

インド原産といわれる。葉がキリの葉に似る。黄色の5弁の花をつける。茎を切り乾燥させ、水に浸して腐敗・発酵させて、表皮の下の靱皮繊維をとる。繊維はもろくジュート(ツナソ)をまぜてロープや麻袋を作る。